

団体名：(財)熱帯海洋研究振興財団

事業名：さんご礁の保全と回復をめざしたサンゴ造園技術の開発と普及

#### < 総合評価 >

本事業は、「海の熱帯雨林」とも呼ばれるサンゴ礁の保全と回復を目指したサンゴ養殖技術の開発と普及を実施したものであり、世界で初めて、有性生殖によって育成されたサンゴが産卵を行うという成果をあげている。この研究成果は、まだミドリイシサンゴ1種類でしかないが、国内では水産庁による沖ノ鳥島でのサンゴ増殖プロジェクトに活用されており、今後築磯事業にも活用される可能性もある。また、当研究所の研究者によってJICAや世界銀行とも協力しながら、有性生殖を用いたサンゴ養殖技術を今後世界的に広めていくこととしている。

#### < 会計評価 >

関係書類、証拠書類、会計帳簿等の整備状況は良好である。

#### < 事業プロセスの評価 >

##### < 優れている点 >

1. 研究所では、20年以上にわたり、サンゴを守る強い意思を持って、海でのモニタリングを通じて必要なデータの収集を、長期間継続して取り組んできている。
2. 研究所は、国内唯一のサンゴに関する民間の研究機関として、設立者の私財によって立ちあげられたもので、海の自然保護に対する思いを実現すべく、サンゴの有性生殖のノウハウについては、広く世界で活用してもらうために、特許をとらずに、公開していく姿勢である。
3. サンゴの研究には健全な、サンゴ礁がある場所が必要であり、当研究所の立地は、最適な場所であり、サンゴに関する長年の基礎研究のデータが累積されている。研究者はサンゴの養殖に関する知識と経験を充分有し、モニタリングに欠かせないダイビング能力も有している。
4. 研究所は地元の行政、漁業組合、ダイビング組合とサンゴの保存のために協力して阿嘉島周辺の3カ所のダイビングポイントを実験的に3箇年閉鎖し、回復状況を調査するなど地元と一体となった事業の推進体制となっている。
5. 研究所では、有性生殖によるサンゴの育成のため、年に1回のサンゴの産卵に合わせて研究計画を立て、これに基づいて開発研究を推進している。またタカセガイを利用した養殖方法を開発し、養殖サンゴの生存率を飛躍的に高めて養殖技術の開発に貢献している。
6. 研究者は、地方自治体のサンゴの移植に関する委員として、それまでの研究成果を発表して貢献するとともに、日本サンゴ礁学会等でも積極的に情報発信に努めている。

#### < 事業成果の評価 >

##### < 優れている点 >

1. 世界で初めて、サンゴの有性生殖による育成に基づいたサンゴの完全養殖に成功した。
2. 地域住民向けには、わかりやすい広報を長期に行ってきたことから、サンゴに対する意識が高い。
3. 地元の小・中学校において、サンゴの産卵時期を中心に、海岸でサンゴを採取し卵から育てる体験を行ったことから、海・サンゴに対する理解が深まった。
4. サンゴの養殖技術についてJICA経由で研修生を受け入れて人材育成に協力し、途上国でのサンゴの養殖技術の向上に貢献するとともに、研究者が世界銀行等とのプロジェクトにも参加して、パラオでサンゴの有性生殖の現地指導も行なって技術移転を行っている。
5. 水産庁に協力して沖ノ鳥島でのサンゴ増殖プロジェクトに参加し、同研究所の有性生殖のノウハウを使って、サンゴを7万株移植した。
6. 研究成果が社会の注目を集めたことから、NHKの朝の全国放送やTV東京をはじめ、多くのマスコミにサンゴの養殖に関する記事や番組が取り上げられ、海洋環境の保護の重要性についても周知できた。

##### < 資金効率 >

事業費総額に対する資金効率の観点からは、予算と決算との乖離がみられるものの適正に執行されており、概ね効率的に使用されているものと思われる。

##### < 望まれる取り組み >

1. 研究所がその創立以来、行ってきた活動を、長期に安定して実施していくため資金源を多様化していきファンレイズを行っていくことが望まれる。
2. 研究成果を特に海外向けに英文によって今以上に意識して行なっていくことが望まれる。